

平成25年9月24日、市長と政策秘書課職員との話について紹介します。

これからのまちのあるべき姿は、

与え、与えられるまち
(制約的・時限的・固定的)

ではなく、

自分たちでつくっていくまち
(多様・融通・無碍)

だと考えています。「自分たちでつくっていくまち」を実現するためには、私も市職員も、市民のみなさんも、もっと学ぶ必要があり、学びを通して「人づくり、人材を育てる」ことが大切だと思っています。

次世代の子どもたちのために

市には、総合計画をはじめ、さまざまな計画があります。これまで計画を作る際には、コンサルタント会社に委託し、市民から委員を公募し、アンケートを実施し、パブリックコメントを行ってしています。市は、その計画に基づいて事業を実施していますが、計画そのものを知っている市民の方はわずかです。それでは、本当の意味での「市民に意見を聞いた計画」ではありません。

現在、市では、地域福祉計画や生涯学習基本計画、田園バレー基本計画、自治基本条例など、さまざまな計画を作っています。いずれも市民のみなさんを巻き込んで作るように指示をしています。計画のほかにも、文化の家では、より良い利用方法を考えるワークショップが行われていますし、11月に西小校区に開設される地域共生ステーションも、使い方などは市民の話し合いで決められています。

これら計画づくりやワークショップ等の話し合いは、市役所の担当課だけ、そこに参加している人だけのものではありません。まちづくり全部につながっているのです。



「地域のために、まず、やってみる」が合言葉
北のステーション部会 ワークショップの様子

市民のみなさんが参加し、職員と一緒に話し合う。作り上げるまでには、「ああでもない、こうでもない」と苦労があり、一つひとつ解決することで、そこに「物語」ができます。「物語」があると、関わった人が自分自身の言葉で語るようになります。そうなってはじめて、「自分のもの」になるのです。

市民のみなさんと一緒につくるといふ、今までやったことのない方法に職員も戸惑い、手法について勉強をしています。「多くの人にワークショップに参加してもらう方法は？」「より効果的な周知の方法は？」とまだまだ試行錯誤ですが、こうした苦労を私も職員も、市民のみなさんも、一緒にしていくことで長久手に人が育っていくはずです。

中国のことわざにも、次の言葉があるそうです。

日を楽しむ人は、花を助けよ
一年後を楽しむ人は、花の種子を植えよ
十年後を楽しむ人は、木の苗を植えよ
百年後を楽しむ人は、人を育てよ

子ども世代、孫世代のためにも、今、私たちが育つことが必要です。

そのためには、「まずは知り合うこと」。その第一歩が「あいさつ」です。そして、市が開催するさまざまなワークショップ等に足を運んでいただき、行政と一緒に悩み、話し合い、将来の長久手のために私も含め、みんなで成長していきたいと思えます。

先日、私が参加したワークショップで隣合わせになった男性が、「通りがかりに参加してみました。こうしたのに参加するのは初めてで、慣れてないから上手く話せない。でも、人と話すのは好きだから、こういうのもいいね！」とおっしゃっていました。

この男性のように、気軽にワークショップ等に参加いただける市民の方がどんどん増えていいなと思えます。まずは、一度、参加してみませんか。「そういう考え方もあったのか！」と、きっと新たな発見、新たな出会いがあるはずですよ。